

## 森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

### ① 活動報告課題名

アサヒビール社有林「アサヒの森」における森林環境教育

### ② 発表団体名

アサヒビール株式会社 アサヒの森環境保全事務所

### ③ 発表概要

アサヒビールは広島県北東部の庄原市・三次市に2,165haの森林を所有しています。現在、森林経営計画に基づく利用間伐中心の施業を地元森林組合や素材生産業者に委託して実施する一方、社有林のフィールドを活用した森林環境教育プログラムを展開しています。

広島県庄原市比和町の「アサヒの森・甲野村山」をフィールドとして、庄原市立庄原小学校6年生と峰田小学校5・6年生を対象に、「アサヒ森の子塾」を2006年から実施しています。森林の中での体験を通じ、二酸化炭素吸収や生物多様性保全など森林の果たしている役割を実感しながら環境保全の大切さについて学びます。

「アサヒ森の子塾」では、国際的な森林環境教育プログラムである「LEAF※」の考え方を導入し、人間と自然の相互作用を理解することをテーマにしたプログラムを実施しています。

2008年12月にアサヒビールと林野庁近畿中国森林管理局は「美しい森林づくりに関する覚書」を国内で初めて締結しました。この覚書に基づきアサヒの森環境保全事務所と広島北部森林管理署は、2009年8月に「甲野村山地域美しい森林づくり推進協定」を締結しました。庄原市比和町にあるアサヒの森・甲野村山および法仏山(ほうぶつやま)法仏山475haと、隣接する甲野村山国有林403haを合わせた878haを対象に、相互に連携して路網整備や利用間伐など低コストで効率的な森林施業の実現を目指しながら間伐材の安定的な供給の促進に共同で取り組むとともに、森林共同施業団地内の豊かな自然を活用して次世代を担う子供たちを対象とした森林環境教育にも共同で取り組むものです。

この協定の具体的な取り組みとして、2009年から庄原市立比和小学校の5・6年生を対象に「森と水の学習会」を広島北部森林管理署と共同で開催してきました。2013年からは、協定に基づく「アサヒの森・甲野村山及び甲野村山国有林」の他に、庄原市高野町の「アサヒの森・俵原山及び俵原山国有林」でも庄原市立高野小学校の5・6年生を対象に開催しています。

「森と水の学習会」では、紙芝居や水の浄化実験を通じて水源涵養など森林の多面的機能について実感しながら学ぶとともに、森林を散策しながらの自然観察や丸太切りなどの体験を通じて、森林のさまざまな役割や環境保全の大切さについて生徒の理解を深めています。

す。

いずれもプログラムの実施にあたっては、広島北部森林管理署の協力団体・びほく森のサポーターズをはじめ、比和自治振興区地域活性化部会の皆様、庄原市役所など、地域で暮らしているさまざまな方々にご協力をいただいています。

ESDの舞台としてはそれぞれの地域に重要な役割があり、次世代を担う子どもたちが積極的に取り組める環境を整えることが大切だと言えます。アサヒの森における森林環境教育プログラムは限定的でローカルな活動ではありますが、これからも地域の学校教育機関、住民やNPO、行政、国（広島北部森林管理署）との連携と協働によってこの活動を継続していくことで、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

※「LEAF」(Learning About Forests)とは

・LEAFは森林業界が森林産業の普及啓発のために開発したプログラムで、子どもたちの環境意識の向上と環境教育に関わる教師の育成を目的としています。LEAFの原型となるプログラムは1983年に北欧で開発されました。

・2000年には、国際NGOFEE(環境教育基金)のプログラムのひとつとなってさらに活動の幅を広げ、2015年5月現在、FEE/LEAFのメンバーである21か国と、このプログラムに賛同するさまざまな協力団体によって、世界各国で実施されています。